



どうせやるなら「素晴らしい改善」をやろう！！

沢山のクライアント企業で改善のお手伝いをしてきているが、やはり一筋縄ではいかない。山あり、谷ありである。

順風満帆で改善活動ができるのであれば何もプロの専門家を雇う必要は無いであろう。

改善活動が生産現場や職場の中できちんと定着していつている企業と、ジリ貧・尻すぼみになっていく企業との「差」は一体何であろうか？

理由は色々あるであろうが、一番に言える事は「改善」を自分のものとして、自分の仕事として位置付けられているかどうかである。

世の中一般では、仕事＝作業＋改善として定義されている。そのことを理解し、自分のやるべき仕事として位置付けて取り組んでいるところは、改善活動が仕事そのものとして定着していつているのである。

反面、仕事と改善活動は別のものだと考えており、「やらされている」としか理解することが出来ていないところは改善活動そのものにも身が入っていない。

当然、他人を感動させるような素晴らしい改善など出来るはずがなく、じり貧になっていつている。これでは大いなる人生の時間の無駄遣いであり、とても残念なことである。

再度繰り返すが、仕事＝作業＋改善である。改善が出来ない人間は仕事も出来ないということである。

どうせやるなら「素晴らしい改善」をやろうではないか？私が考える「素晴らしい改善」にはいくつかの条件があるが、これらを乗り越えて周りを感じさせていくような改善をやっていききたいものである。

「素晴らしい改善」とは、

- (1) 改善案の中にモノマネではなく、創意工夫が散りばめられている。
- (2) 障害や困難にもめげず、執念がこもっている。
- (3) 科学的である。
- (4) 波及効果が大きく全面的である。
- (5) 継続性がある。

等々である。

